



ビジネスアーキテクトの プロモーションについて

株式会社エル・ティー・エス
山本政樹

施策カテゴリ：当事者(実践者)のアイデンティティ確立

テーマ	検討内容	施策	委員コメント（抜粋・一部簡略化）
当事者(実践者)のアイデンティティ確立	当事者(実践者)のアイデンティティ確立のために取り組むべきこと [例] ・実践者コミュニティを立ち上げ、当事者間での交流などを通じ、役割の共通認識化や、キャリア意識を醸成する など	実践者コミュニティの形成およびイベントの開催	・ 経産省主導のBA育成フォーラム開催。 ・ 実践者コミュニティの設立（事例共有会、ナレッジ共有プラットフォーム） ・ 地域版コミュニティ（例：関西ビジネスアーキテクト会）との連携および支援。
		キャリアパスやロールモデル、働き方の明確化	・ DSS（デジタルスキル標準）に基づくキャリアパスモデルの提示と、ロールモデル紹介動画の公開 ・ 組織におけるロールモデル定義 ・ キャリアパスガイドラインの公開（スキルマップ、成長ステップ）いずれ現開発中のPFに統合 ・ 役割とタスクの明確化/スキル体系の整備
		試験によるアイデンティティの向上	・ 公的な資格があると、個人においてはその資格を取得して活かしたいというモチベーションが高まる

施策カテゴリ：企業内での認知向上・定着に向けた後押し

テーマ	検討内容	施策	委員コメント（抜粋・一部簡略化）
企業内での新ビジネスアーキテクト体系の認知の向上・定着に向けた後押し	企業内での新ビジネスアーキテクト体系の認知の向上・定着のために取り組むべきこと [例] ・企業経営者コミュニティ構築 ・（「DX認定」や「攻めのIT銘柄」のような）認定制度構築など	イベント・啓発活動の実施	・各ビジネスアーキテクチャ人材の役割に対する経営レベルのコミットメントとスポンサーシップを確立する。 ・経営・人事部門に新ロールを理解いただき、人材育成・配置に取り入れてもらう。 ・ビジネスアーキテクチャ人材モデルのプロモーションビデオとセミナーの集中的（初期）かつ定期的開催する。 ・年次アワード創設：優秀な実践者を顕彰する「Best Business Architect of the Year」等を設立。
		企業組織への認定制度の創設	・「ビジネスアーキテクト導入企業認定制度」の創設（例：DX認定のような表彰制度）。 ・「コーポレートガバナンスコード」や「DX銘柄・認定」制度の審査要件に、（ビジネスアーキテクト要素が不足しているのであれば）追記をする。
		企業へのビジネスアーキテクト導入支援制度の創設	・DSSに準拠した導入ガイドラインの策定と、導入支援コンサルティングの提供。 ・職業能力評価基準への「ビジネスアーキテクト、ビジネスアナリスト、プロダクトマネジメント職群」の追加と、助成金対象研修の整備。 ・再就職希望者へのリスキリング支援としての試験付き研修コースの整備と、職業紹介との連動。
		その他	・コミュニティやプロモーションを行う団体を通じて企業経営者コミュニティに働きかける。 ・BAを「社内コンサルタント」と位置づけて外部コンサルへの依存に課題意識を持つ企業に訴求する。

施策カテゴリ：プロモーション戦略

テーマ	検討内容	施策	委員コメント（抜粋・一部簡略化）
プロモーション戦略	社会全体へ新ビジネスアーキテクト体系の認知の向上・定着のために取り組むべきことおよび人材育成に関するプロモーションをどのようなスキームで行うか [例] ・民間主要団体等と連携した啓発活動 ・モデル教材や研修コンテンツ制作	教育機関との連携 （産学連携）	・ 高等教育機関向け「ビジネスアーキテクト教育プログラム」の開発とモデルカリキュラムの提供を通じて、学生・教育機関への認知拡大と将来人材の裾野拡大を図る ・ 大学院・大学のMBA・経営学関連や情報工学関連の講座内にビジネスアーキテクチャ人材についての講義枠を入れさせてもらう。 ・ 大学に変革学科を設置して、学べる仕組み、その職種に到達できるための入り口を作る。
		メディア （SNS含む）との連携	・ 「未来をつくる仕事」としてのビジネスアーキテクトを紹介するドキュメンタリーや特集記事を展開し、一般社会への認知・社会的価値の訴求を強化する。 ・ 各ビジネスアーキテクチャ人材について、どのような役割と仕事をしているか、どのようにしてそのキャリアにいたったかを書いてもらい（ストーリーテリング）、Webで継続連載する（スピード感でWeb優先だが、まとめて書籍化していてもよい）
		業界団体・民間企業との連携	・ 経済産業省・IPAが、主要団体（JUAS、IT協会、経団連等）と連携して団体参加の事業会社に啓発活動を実施する ・ 各主要団体等とも連携したビジネスアーキテクチャ人材領域の横ぐしカンファレンスの定期開催（Bastのbbcカンファレンスのように） ・ 各ビジネスアーキテクチャ人材の基本研修コンテンツの作成
		研修・採用市場との連携	・ 経済産業省・IPAが、研修制作会社と連携して事業会社に研修コンテンツを提供する ・ 民間研修会社と連携したeラーニング・MOOC（大規模公開オンライン講座）の提供と修了証発行制度の整備により、若手社会人やリスクリ層へのリーチを拡大 ・ 採用マーケットでBA人材の名称や役割を訴求する。人材紹介企業と連携し、転職サイト・エージェントサイトでBA募集の職種特集を実施する。「社内コンサルタント」として（コンサルティング業界ブームに乗る形で）BA業務を訴求していくことは有効ではないだろうか。

施策カテゴリ：試験化

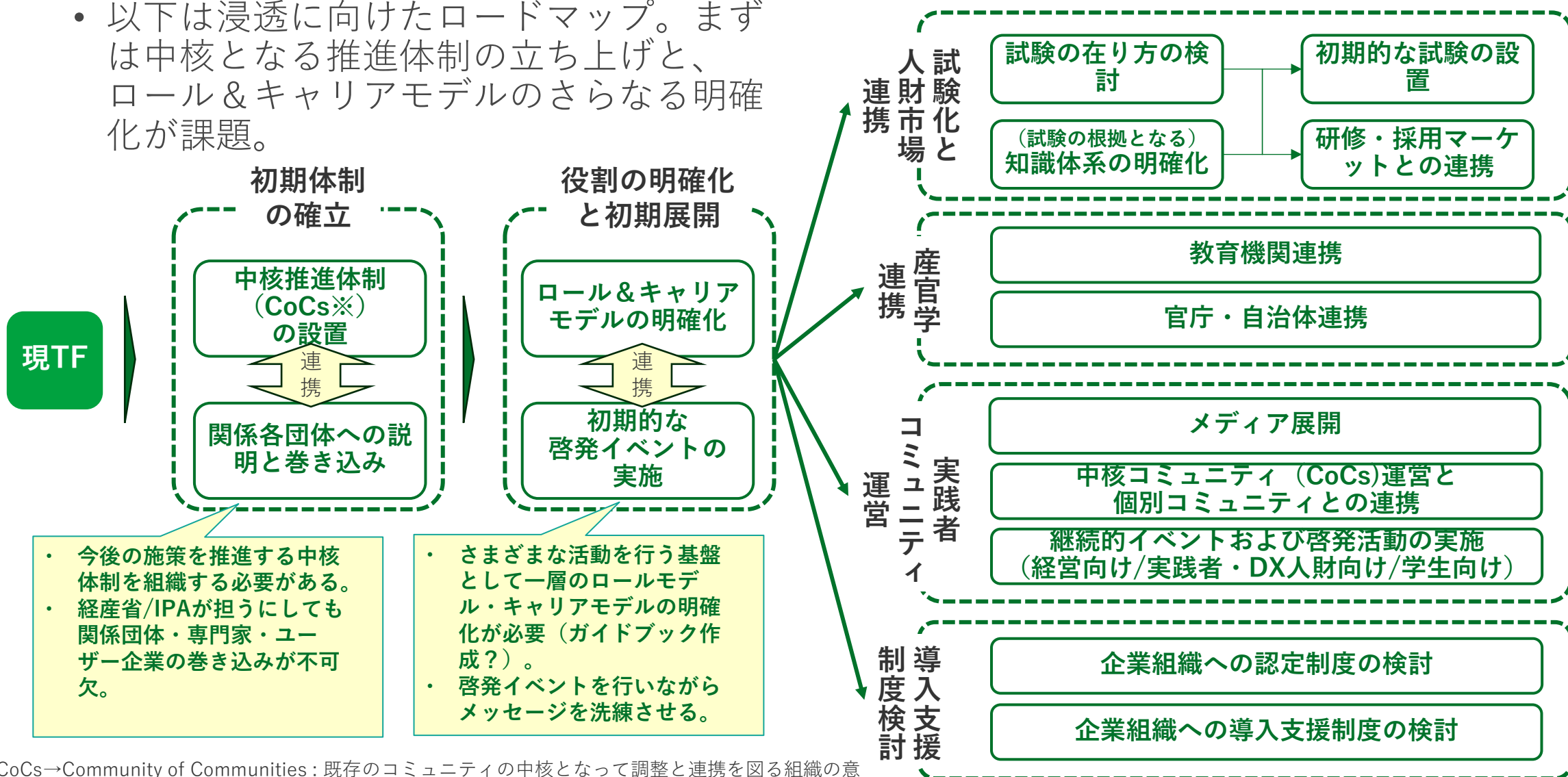
テーマ	検討内容	施策	委員コメント（抜粋・一部簡略化）
試験化	ビジネスアーキテクチャ人材育成のための試験化の是非および各企業におけるニーズの有無 [例] ・試験化の是非に関するご意見 ・各企業におけるニーズに関するご意見	試験の推進について	【賛成意見】 ・DSSに準拠した認定試験の設計と段階的資格制度 ・試験については、作成・運営が可能であれば有用と考える。試験があると、個人側だけでなく、企業側においても役割の認知につながると考える。 ・試験は実施した方が良いと思います。その職種に到達するための学ぶ仕組みとしても試験が活用できるため。また、社内で人材を探す際にも活用できます。 【試験の方法について】 ・試験化については、第一義的に、既存のITストラテジスト試験へのシラバス追加を検討し、必要に応じて試験の名称変更をすべき。 ・（各種団体が既に提供している）既存の各種試験と連携してエントリーレベル（知識中心試験。3つの役割共通の基礎知識として。）とスペシャリストレベル（業務経験とケース適用中心試験）で構成してはどうか？ ・主要な業界ごとに、試験等を実施している業界団体と連携した普及施策を推進していくことも考えられる（例えば、金融業界では「NPO法人 金融IT協会」が設立され、金融業界のITリテラシーの底上げを目指して「金融IT検定」が運営されている）。 【懸念】 ・国内でのビジネスアーキテクチャ分野の認知度・活用度はまだ十分に成熟していないため、現時点で独立した試験化を行うのはやや時期尚早か。そのため、独立試験として切り出すのではなく、現在検討中の「デザインマネジメント試験」の検討の中に統合・再整理して位置づけるほうが現実的ではないか。
		付随意見	・既存の投資に対して無駄にさせない配慮や各団体との連携と相互協力があってもよい。 ・試験導入企業へのインセンティブ（助成金、認定マーク付与など）制度の検討することで、企業側の導入促進・人材流動性の向上を図る。

施策カテゴリ：その他

テーマ	検討内容	施策	委員コメント（抜粋・一部簡略化）
その他	その他取り組むべきことなどあれば	グローバル連携	・ ISOやIIBA、TOGAFなど国際標準との整合性確保と、日本発の職群モデルの国際発信を推進し、グローバル連携・標準化を強化。 ・ 米国・シンガポール・インドといったDX先進国のリーダー企業をベンチマークし、わが国としてDX競争力の順位目標（KGI）を明確に設定する。その上で、単発の施策ではなく、人材育成プラットフォームの進展と並行した長期的・横断的な基盤づくりを推進していく。
		官公庁における浸透	・ 政府内のデジタル人材戦略におけるビジネスアーキテクト職群の明示と、採用・育成方針の策定を通じて、全省庁横断での人材活用・育成を加速したい。 ・ 自治体や官公庁におけるBAct/PdM/BAstの導入モデル事業の実施と成果公開を通じて、公共部門での先進事例を創出・発信したい。

浸透に向けたロードマップ

- 以下は浸透に向けたロードマップ。まずは中核となる推進体制の立ち上げと、ルール&キャリアモデルのさらなる明確化が課題。





End of File